

鈴木有郷牧師説教

6/5/2011

イエスの昇天—その意味は？ ルカ24:44-53

今日は教会の暦によると、イエスの昇天を記念する日曜日です。イエスは復活された後、天に昇られたと言うのです。

これを文字通りに受け取れば、最近テレビで放映された、スペースシャトルの打ち上げのような感じがします。そのイメージは現代に生きる私たちの間に笑いを誘い、荒唐無稽なエピソードとして無視されてしまいがちです。

しかし、聖書が語る昇天物語は、笑ってかたつけてしまえるようなものではありません。それには、深い意味が込められているのです。

イエス昇天のエピソードの概要は以下の通りです。イエスは復活された後、弟子達の前に現れ、彼らに一つの課題をお与えになりました。福音を全世界の人々に宣べ伝えなさい。私はそのあなた達を支え励まして止まない、そう言われたのです。その直後、主イエスは天に上げられたと聖書は記しています。

この不思議な物語の背後にどのような意味が込められているのでしょうか。私たちは、そこに少なくとも四つの意味を読み取ることができます。

意味の第一。昇天物語は、イースターが明らかにしたことをあらためて強調します。イエスのメッセージを、ガリラヤやエルサレムに押し込めておくことは最早できなくなったのです。2000年前の紀元1世紀のパレスチナに留め置くことは最早できなくなったのです。

イエスの昇天の第一の意味、それは、イエスのメッセージが特定の場所や時代を超えて、全世界の人々に向かって開放されたことを意味しています。

全世界に向かって開放されたイエスのメッセージとは何でしょうか。これが意味の第2です。良い羊飼いが、一匹の迷い出た羊を、それを見つけるまで荒野を一晚中探しまわるように、神は人間を探し求めてやまない神である。あの親の財産を使い果たして、ほろほろになって帰ってきた放蕩息子を喜んで抱きかかえて迎え入れた慈悲深い父親のように、神は人間を絶対見捨てることはなされない。だから立ち返れ。神に立ち返れ。これが福音の中核です。

そして意味の第3。それは弟子達一人一人がイエスの福音の器となるように召し出されている、ということです。これはたやすい道ではありません。困難がつきまとう道です。殉教の道です。しかし、恐れることはない。イエスは彼らと共に困難を背負い、生きる喜びを共有される、というのです。

そして昇天物語の意味の第4。それは、人生の同伴者イエスは、死の直中においても、死の向こう側においても、人生の同伴者であり続け給うということです。弟子達の友イエスは、永遠の世界においても変わらぬ友なのです。

ですから、弟子達は死を恐れることはないのです。主イエスがおられるから恐れることはないのです。死において彼らは無になるのではないと確信することができたのです。死は神を顔と顔とを合わせて見る前段階に過ぎないのです。

様々な困難を覚悟していた弟子達にとって、殉教の危険につきまといわれていた弟子達にとって、これ程力強い、慰めに満ちたメッセージもなかったのではないのでしょうか。死は無ではないのです。死は慈しみ深い神への通り道なのです。

さあ、イエスの昇天のエピソードが、荒唐無稽な、ミラクル・ストーリーでないことが明らかになりました。イエスのメッセージの核心を突いたものであることが明らかになったと思います。

ここで私たちが心に刻み付けなければなことがあります。それはイエスの昇天物語は、21世紀を生きる私たちのためのものでもあるということです。

弟子達の同伴者イエスは、私たちの同伴者でもあられるのです。2000年前に弟子達を慈しみで囲まれたイエスは、今私たちが慈しみで囲まれているのです。2000年前に弟子達を福音のメッセンジャーとして召し出されたイエスは、今私たちを同じ目的へと召し出されておられるのです。弟子達が死を恐れなくなったように、私たちも死を恐れる必要はないのです。

何故なら、いかなるこの世の力も、死さえも、イエスにおける神の愛から私たちを引き離すことはできないからです。イエスこそ、我らの同伴者です。生きるにおいても、死ぬにおいても、死の向こう側においてもそうです。イエスこそ永遠なる同伴者です。

これ程の慰めがあるのでしょうか。これ程私たちに生きる勇気と希望をもたらしてくれる良き知らせがあるのでしょうか。

